

Café Emartín

第7回 ピアノコンサート

2011年 5月 4日 (水)

開場 14:30 開演 15:00

サロン・ド・パッサージュ

入場無料

ごあいさつ

本日は、Cafe Emartin 第7回コンサートに足をお運びいただき、誠にありがとうございます。本コンサートは、東京農工大学ピアノ部OBを中心とした有志が集まり毎年企画しております。私たちは音楽が大好きで、とりわけピアノが大好きで、この「私たちの大好きなピアノ」を皆様に聴いていただきたく、本コンサートを催しました。

また、このたびは3月11日に起こりました東日本大震災で被災された方々におかれましては、心よりお見舞いを申し上げますとともに、深い哀悼の意を表します。私たちの仲間の一人も東北より出演予定でしたが、被災により出演が難しくなり、今回のコンサートも開催すら危ぶまれました。しかし、音楽は決して消えてなくなるものではなく、人々の心に潤いを与えられるものであります。ここには、是が非でもこのピアノコンサートを開催したいという強い気持ちを持った仲間が残り集まりました。そんな私たちの演奏をご一緒にお楽しみになっていただけたら幸いです。

演奏者一同

本日のプログラム

♪ 第1部 ♪

1. W. A. モーツァルト

ピアノソナタ第11番 イ長調 K.331

第1楽章 主題と変奏曲 Andante grazioso

第2楽章 メヌエットとトリオ

第3楽章 トルコ行進曲 Allegretto

務川 重之

2. 西村 由紀江

手紙

坂本 龍一

戦場のメリークリスマス

藤岡 幸

3. J. S. バッハ = F. ブゾーニ編

無伴奏ヴァイオリン・パルティータ 第2番 BWV1004より シヤコンヌ ニ短調

本山 基彰

— 15分休憩 —

♪ 第2部 ♪

【フランツ・リスト 生誕200周年記念企画】

4. F. リスト

パガニーニの主題による大練習曲 第3番 嬰ト短調 「ラ・カンパネラ」

務川 重之

5. F. リスト

パガニーニの主題による大練習曲 第5番 ホ長調 「狩り」

税田 祥平

6. F. リスト

愛の夢 第3番

升島 希美

7. F. リスト

ハンガリー狂詩曲 第12番 嬰ハ短調

本山 基彰

— 15分休憩 —

本日のプログラム

♪第3部♪

8. →Pia-no-jaC←
組曲『』

岩崎 絵美里

9. L. v. ベートーヴェン
ピアノソナタ第8番 ハ短調 op.13 「悲愴」より 第一楽章

税田 祥平

10. M. モシユコフスキー
左手のための練習曲 Op.92 より 第12番
A. スクリャービン
左手のための小品 Op.9 より 夜想曲

崔 香奈

11. F. シューベルト
幻想曲 ハ長調 「さすらい人幻想曲」 Op.15 D.760
第1楽章 Mov.1 Allegro con fuoco, ma non troppo
第2楽章 Mov.2 Adagio (Der Wanderer)
第3楽章 Mov.3 Presto
第4楽章 Mov.4 Allegro

筒井 一貴

**この後も、サプライズの裏プログラムをご用意していますので、
どうぞ最後までお楽しみを♪**

演奏者からのメッセージ

1. W. A. モーツァルト / ピアノソナタ 第11番 イ長調 K.331 務川 重之
古典派のピアノソナタとしては異色の、ソナタ形式の楽章を持たないソナタです。
第1楽章は主題と6つの変奏曲から成っています。主題はとても美しく愛らしい曲で、今回、私はこの主題が弾きたくてこの曲を選んだと言っても過言ではありません。そこからモーツァルトらしい素直な音楽性と多彩な表情を持った変奏曲が次々と紡がれていきます。まさにモーツァルトの真骨頂、文句なしの名曲です。
第2楽章は3/4拍子の舞曲メヌエットと中間部トリオによって構成されており、私は当初あまり面白くないなごの楽章だと思っていました。しかし、実際に弾いてみると艶のある色っぽい曲で、このソナタの中では最も深く感情をこめられる楽章でした。心のおもむくままに歌います。
第3楽章は有名なトルコ行進曲です。この楽章はもうやりたい放題やるしかありません。とにかく好きに弾きます。
2. 西村 由紀江 / 手紙 藤岡 幸
坂本 龍一 / 戦場のメリークリスマス
エマルティンは今回で三回目となります。いずれも二曲ずつ弾いてきましたが、その組み合わせには「海」「翼」とテーマがありました。
さて、『手紙』と『戦メリ』、一見無関係なこの二曲の隠された共通点は？
…実はありません(笑)
強いてあげるならば、「日本人」でしょうか。『手紙』は日本人女性の柔らかさと芯の強さ、『戦メリ』は日本人男性の高潔さと力強さ。私の中の「古き良き日本人」のイメージに近い印象を持っています。
曲の背景などの説明がなくて申し訳ありませんが、現代の曲ですので、まずは細かい背景に拘らずイメージ先行で聞いていただけたらと思います。
2. J. S. バッハ = F. ブゾーニ / シヤコンヌ 二短調 本山 基彰
「音楽の父」ヨハン・セバスティアン・バッハ(1685-1750)は、無伴奏ヴァイオリンのために3曲のソナタと3曲のパルティータを書きましたが、パルティータ第2番の終曲に置かれた変奏曲「シヤコンヌ」は、その厳粛で気高い音楽の威容から、単独で取り上げられることも多いようです。
イタリア出身でドイツを中心に世界中で活躍した作曲家・ピアニスト・指揮者・音楽教師である、フェルッチョ・ブゾーニ(1866-1924)は、この作品をきわめて演奏効果の高いピアノ作品に編曲しており、他楽器作品のピアノ編曲としては類を見ない知名度と人気を誇っています。
この曲を練習していると、異なる時代が生んだ2人の天才のみによって生まれた、世紀の名作・名編曲だどつくづく感じます。ブゾーニ自身驚異的な技巧を持つピアニストであったことから、やはり演奏は困難ですが、この2人の音楽家の偉大さをほんの少しでも伝えられたらと思います。
3. F. リスト / パガニーニ大練習曲 第3番 「ラ・カンパネラ」 務川 重之
ニコロ・パガニーニのヴァイオリン協奏曲第2番の第3楽章の主題をピアノに編曲した練習曲です。
ラ・カンパネラは「鐘」を意味しており、最初はコロコロと転がるように可愛らしく、曲が進むにつれて段々と激しく荘厳に鳴り響いていきます。豊かな音楽性とド派手なパフォーマンスを兼ね備えた曲であり、聴いても見ても楽しめる優れたエンターテインメントです。ぜひ鍵盤の見える位置で聴いていただければと思います。
4. F. リスト / パガニーニ大練習曲 第5番 「狩り」 税田 祥平
バイオリン界の鬼才ニコロ・パガニーニの「24のカプリース」第9番を原曲とし、リストが音をほとんど変えずにピアノ用書き下ろしました。曲の中間部には、ピアノ史上珍しい六度のグリッサンドがあります。(これが弾きたくて選んだと言っても過言ではありません)。
グリッサンドの練習をしすぎて学校のピアノを血染めにした経験あり。物凄く怒られました。あの時はごめんなさい。

演奏者からのメッセージ

5. F. リスト / 愛の夢 第3番 升島 希美
この曲はピアノ部に入った時、最初にコンサートで弾いた思い出の曲です。今も昔もピアノが好きということが伝わるように弾きたいと思います！！
6. F. リスト / ハンガリー狂詩曲 第12番 本山 基彰
リストには2つの顔があるように思います。1つはサーカスのように観客を熱狂させる「パフォーマー」としての顔、2つ目は音楽の神髄をとことんまで突き詰めた音楽を世に残そうとした「音楽家・作曲家」としての顔。この作品には、そのような2面性が実に見事に融和して現れているように感じます。空前の超絶技巧ピアニストであるフランツ・リストの真骨頂ともいえる、傑作です。同じく、鍵盤の見える位置で聴いていただければと思います。
7. →Pia-no-jaC← / 組曲『』 岩崎 絵美里
はじめまして、こんにちは。
皆さん→Pia-no-jaC←(ピアノジャック)をご存知でしょうか。
名前の由来は左から読むとpiano(ピアノ)、右から読むとCajon(カホン)という→Pia-no-jaC←。
カホンは箱の形をした打楽器です。
真ん中を叩くとドラムの低音、バスターのような音がでます。
そんなカホンとピアノの組み合わせで奏でる組曲『』。
今回はピアノですが、打楽器を演奏している感覚で弾きたいと思います。
どうぞお楽しみ下さい。
8. L. v. ベートーヴェン / ピアノソナタ 第8番「悲愴」より 第一楽章 税田 祥平
三大ソナタの一つとして有名な「悲愴」は、ベートーヴェン自身が副題をつけた数少ない曲で、僕にとっても非常に思い入れ深い曲です。これまで何回も人前で演奏していますが、なかなか満足する音が出せていません。今回も色々と試行錯誤を重ねてきました。
「今」の自分にできる最高の演奏ができるよう頑張りますのでよろしくお願いします。
9. M. モシユコフスキー / 左手のための練習曲 Op.92 より 第12番 崔 香奈
A. スクリャービン / 左手のための小品 Op.9 より 夜想曲
右手の治療を始めてから3ヶ月がたちました。
両手で演奏出来なくなってから半年・・・
不慣れな左手1本での演奏は容易なことではありません。
上手になんて弾けない。
けれど、こうなってみて強く感じることに。
10本の指が5本になったことで、音楽の世界が半分になるわけではない。
今まで自分は10本の指に頼り、1番大切なことを忘れていたのかもしれない。
片手になったことでより強く感じる『音を奏でる喜び』
いつか右手が治ったら、今までとはまったく違う演奏が出来ることでしょう。
そんな日を楽しみにしながら、この2曲に想いを込めたいと思います。
10. F. シューベルト / 「さすらい人幻想曲」 筒井 一貴
農工大ピアノ部に積極的に関わっている最長老となつて久しい。各人のピアノとの関わりが呆れるほど多種多様であるのがココの特徴であり、大学入学当時とは似ても似つかぬほど変わり果ててしまう輩あり、変わらなかつたようでも実は本質がハッキリ変わった輩あり、それはそれは多彩な人生が繰り広げられている。
ただ昨今の21世紀化(!)の弊害か、セコく小賢しく自らを欺くことで変化(=成長)から目を背けてしまう輩も少なくない。その方がラクだし、自分がわかっている気にもなれるので気持ちはわからんでもナイのだが、実はスカスカなのがバレバレなのに一生気づかないのはオメデタイというか滑稽というか・・・オジさんは憂いておるぞよ!(ホントか?笑)

Cafe Emartin とは？

喫茶店を意味する『Cafe』という語と、フィンランドの作曲家Erkki Melartin に由来する造語『Emartin』を組み合わせたもの。高級感がありながらも一般の方々に気軽に入場していただきたい、個性豊かで音楽好きの出演者達に相応しい、といった理由から決定いたしました。

沿革

- 2005年5月21日 東京農工大学ピアノ部の新入生歓迎行事にて、第83回Concert of the Errorに参加できないが、一般のお客様の前で演奏したい部員・OBにより『夏コン第6部』を結成。11月の学園祭でコンサートを行うことを決定。
- 2005年11月12日 東京農工大学農学部にて第1回コンサート開催。コンサート後の打ち上げで、幅広い参加者を募り演奏会活動を継続していくことを決定。2006年春の第2回コンサート開催に向けて動き出す。
- 2006年1月28日 第2回コンサート初のリハーサル後、和風ネパール料理「ミトラ」(国立駅南口徒歩1分)にて、演奏会名を『夏コン第6部』から『Cafe Emartin』に改称。
- 2006年5月6日 東大和市ハミングホール小ホールにて第2回コンサート開催
(ピアノ:BECHSTEIN)。
- 2007年5月5日 サロン・ド・パッサージュにて第3回コンサート開催
(ピアノ:Steinway & Sons)
- 2008年5月5日 サロン・ド・パッサージュにて第4回コンサート開催
(ピアノ:SAUTER)
- 2009年5月5日 サロン・ド・パッサージュにて第5回コンサート開催
(ピアノ:Steinway & Sons)
- 2010年5月4日 サロン・ド・パッサージュにて第6回コンサート開催
(ピアノ:Grotrian)